

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 69 号

Biochemical indicators and systemic reaction times in male judo competitors during regular and pre-competition conditioning periods

(男子柔道選手における試合期と非試合期の生化学的指標と全身反応時間の検討)

田村 昌大 (たむら まさひろ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

柔道競技者の減量を伴うコンディショニングに関する先行研究については、減量期のみでの体組成測定や最大酸素摂取量を検討した研究が散見する程度である。本研究では、公式戦に出場する選手を対象に非試合期と試合期での体組成や血液・生化学検査、全身反応時間等をパラメーターとして減量期に入っている競技者のコンディショニングに関する知見を得ている。今後、データを積み上げることでコーチング現場における試合期の練習メニューの構築や提案を行うための指標となり得る可能性がある。

【研究方法の妥当性】

被験者は公式戦にエントリーした選手群であり、実際の減量方法を含んだコンディショニングの状況にアプローチできたことは有意義であると考えられる。しかし、結論を生化学的指標から言及しているにもかかわらず、身体組成の計測方法、被験者の階級や目標減量値、実験前日までの食事などがコントロールされておらず、結論の信憑性については疑問点も多い。測定項目は先行文献に鑑み、測定の円滑さや簡易性など被験者への配慮を優先していることは理解できるが、研究目的に合致した方法論は再考の余地もある。ただ、試合期（試合日の 7 日前）と非試合期での比較については新規性があり、挑戦的な方法論であると考えられる。

【結果・知見の新しさ】

本研究では、過去に例を見ない減量を伴う柔道競技大会出場する選手の試合直前の体組成や血液・生化学検査データ、全身反応時間について言及しており、興味深い。結果においてはこれまでの減量に対するネガティブイメージを変える考察を導いている。今後は実験方法をより精査していくことで新しい知見を得られる可能性がある。

【考察および結論の妥当性】

考察では、これまで明らかになっている HDL-C や LDL-C 等の血中脂質マーカーに及ぼす「有酸素運動」と「全身持久力レベル」の解釈に飛躍する部分がみられたが、本研究結果の考察としては、先行研究との比較も詳細に行っており、妥当性が認められた。研究の限界点についても言及しており、結論をサポートするデータが得られている。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究の結果は、主観的な視点で画一的に行われていた柔道競技の練習内容や試合期のコンディション構築の一助となる研究であると考えます。今後、非侵襲的な方法論によるデータの積み上げが、特に減量を伴った時期の練習内容や処方を検討する際の手掛かりとなると考えます。

【質疑に対する応答の適切性】

質疑に対しては誠実に回答する姿勢がみられたが、回答と説明については困惑する場面が散見された。応答の適切性は平均的なものであり、説明を詳細かつ円滑に出来る能力が今後の課題である。

【論文審査の結果】

本研究においては客観性に若干の課題はあるものの、研究目的については独創性と論理性があり、今後の柔道競技コーチングについて有意義になるであろう知見を提示している。以上のことから本審査会では博士論文として最終審査資格を充足していると判断し「合」とした。